

通し番号	3964
------	------

分類番号	15-3B-12-04
------	-------------

(成果情報名) 直売向き品種として有望なカキの早生新品種「早秋」「甘秋」
[要約] カキ早生新品種「早秋」は、9月下旬～10月上旬に収穫可能で、糖度16Brix%、果実品質が良好な完全甘ガキである。「甘秋」は、10月中下旬収穫、糖度17Brix%で、果肉が緻密、栽培容易な早生完全甘ガキであり、いずれも直売向け品種として有望である。
(実施機関・部名) 神奈川県農業総合研究所 生物資源部 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

(独)果樹研究所で育成され、全国の都道府県試験場にて特性検定試験が行われ、新品種となった「早秋」、「甘秋」は、早生の完全甘ガキとして、県内の生産者から注目されている。そこで、その特性について、調査を行い、県内へのすみやかな普及を図る。

[成果の内容・特徴]

1 「早秋」(「伊豆」×「109-27」)は9月下旬から収穫可能で、一果重240g程度、肉質が緻密、果汁は多、Brixは16%、同時期に収穫される「西村早生」よりも食味は良好である。ただ、果頂部の窪みが生じること、また生理落果が多いことが問題とされる。受粉が必要な不完全甘ガキ「西村早生」に代わる品種として有望である。

2 「甘秋」(「新秋」×「18-4」)は、10月10日前後から収穫可能である。果形は丸みを帯び、一果重は約240g、肉質が緻密で柔らかく、Brixは16～20%に達し、非常に甘い。結実性は、良好で、品質が高いことから、有望品種であると考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1 「早秋」は、収量性が同時期に収穫される「西村早生」に劣る。そのため栽培上は、摘蕾(葉蕾比13を目安)と人工受粉を行い、生理落果を防ぐとともに初期の果実肥大を施すことで、250gの果実を安定して取ることができる。

2 「甘秋」は、着果過多は糖度低下を招くため、摘果を十分に行うことが栽培上のポイントである。汚損が若干発生するが、当所においては、直売上問題はないと考えられた。

[具体的データ]

表 1 各品種の最近 5 年間²のデータ (平成11年～15年)

品種名	展葉期	開花盛	収穫始	収穫盛	収穫終	一果重 g	果皮色	糖度	累積収量/樹 kg/樹
							チャート	Brix%	
早秋	4/8	5/24	9/26	10/4	10/5	246.6	6.2	16.3	10.1
甘秋	4/16	5/27	10/7	10/18	10/31	240.7	5.4	16.9	53.5
貴秋	4/14	5/27	10/5	10/14	10/23	290.8	5.3	15.1	31.7
西村早生	4/4	5/19	10/4	10/8	10/10	210.3	4.8	15.6	18.8
伊豆	4/14	5/24	9/29	10/9	10/10	256.3	5.2	11.9	1.8
前川次郎	4/8	5/21	10/22	10/31	11/11	286.5	5.5	16.0	46.0
松本早生富有	4/9	5/26	10/23	11/1	11/4	248.3	5.3	16.1	6.6

² 早秋：H11除く 西村早生：H13除く 松本早生富有：H14～H15

表 2 各品種の特性 (平成15年度)

品種名	樹勢	雌花の	雄花の	早期	後期	肉質		渋み	果汁
		着生	着生	落果	落果	粗密	硬さ		
早秋	中	多	なし	少	少	中	軟	なし	多
甘秋	中	多	少	少	少	密	中	なし	中
貴秋	中	多	なし	少	少	中	中	微	中
西村早生	中	少	なし	少	少	粗	硬	なし	少
伊豆	弱	多	なし	中	少	中	中	なし	多
前川次郎	中	多	なし	少	少	中	中	微	中
松本早生富有	中	多	なし	中	少	中	中	微	中



写真 1 「早秋」



写真 2 「甘秋」

[資料名] 平成15年度 試験研究成績書 (果樹)

[研究課題名] カキ新品種の特性検定

[研究期間] 平成11年度～平成15年度

[研究者担当名] 関 達哉